

平成 29 年度第 3 回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会会議録

1 日時

平成 29 年 10 月 30 日（月） 15:30～17:00

2 場所

エスポワールいわて 1 階 小会議室

3 出席委員（敬称略）

委員長 岡 田 秀 二
委員 角 田 信 子
委員 工 藤 昌 代
委員 郷右近 勤
委員 田 村 恵
委員 福 士 信 幸
委員 吉 野 英 岐

4 議事

【1 開会】

- ・ 事務局が開会を宣言。

【2 挨拶】

〔岩手県農林水産部農政担当技監〕委員の皆様には、本県の農業振興に御支援・御協力を賜り、感謝申し上げます。

本日は、「いわて中山間賞」の選考にあたり、推薦された集落等が表彰にふさわしいか審議をいただくためにお集まりいただいた。

10 月 25 日の毎日新聞に農業ジャーナリストの青山浩子氏の記事が掲載されていた。内容は、農業に長年就いていた人は医療費が少なく済むというもので、これはおそらく、農業を営んでいる方は、自然や市場の条件を季節に合わせて考えながら体を使い、健康を保っていることが要因と思われる。高齢農家が医療費の削減という外部経済効果をもたらすことを証明するものであり、中山間地域は、生涯年齢と健康年齢がかなり一致している、非常に恵まれた環境にあると考える。

今年度は、八幡平市、奥州市、一関市から 3 件の集落等の推薦があり、委員の皆様には 9 月 12 日と 19 日の 2 回にわたり現地を見ていただいた。それぞれ伝統文化の継承等を通じて個性を活かした活性化の取組が見られた一方で、各集落が抱える共通の課題として、高齢化、人口減少等に対応して、将来にわたり集落を維持する

ための取組が挙げられたのではないかと思う。

本日は3件の集落等について、現地調査結果等を踏まえながら、「いわて中山間賞」の授与が妥当か、御審議くださるようよろしくお願い申し上げます。

- ・事務局から、委員9名のうち、過半数を超える7名の出席があることから、委員会が成立することを報告。

(これ以降、設置要綱第4の2の規定により、岡田委員長が議長となり進行。)

【3 協議】

平成29年度「いわて中山間賞」授与候補集落の選考

- ・事務局が、資料No.1に基づき、「いわて中山間賞」の概要と選考の基準を説明。

(1) 八幡平市「横間集落」

- ・事務局が、資料No.3に基づき、八幡平市の横間集落の概要を説明。

《意見等の内容》

[福士委員] 横間集落は中山間地域等直接支払制度にいつから取り組んでいるのか。

[事務局] 横間集落は、中山間地域等直接支払制度に取り組んでいないが、多面的機能支払には取り組んでいる。

[福士委員] 横間自治公民館が中心となり地区で色々なことを実施しているが、公民館の活動そのものは、他と比べてどうか。

[事務局] 公民館が主体となってこうした活性化の取組を実施しているのは、どこでも行っているようなことではないと思うが、例えば昨年度表彰した「横欠環境保全の会」は、公民館が中心となって活動していたと記憶している。

[郷右近委員] 小中学生が0人と厳しい状況であるが、りんどうという強みがあり、頑張っている人が少ないながらも居ると感じた。また、中国人留学生のボランティアの方々が来て虫追いまつりの運営を行うのは素晴らしいと思った。願わくは、彼らが帰国しても交流が続き、様々な可能性が広がることである。

[岡田委員長] 横間集落は中山間地域等直接支払制度の協定集落ではないということであるが、「いわて中山間賞」の候補にすることについて、推薦あるいはこの場に挙げた段階で、どのような整理があったのか教えていただきたい。

〔事務局〕実施要領では、「いわて中山間賞」は、必ずしも中山間地域等直接支払制度に取り組んでいなくても受賞できるようにしている。現時点で制度に取り組んでいる集落等の参考になるのであれば積極的に紹介していこうという意図がある。因みに、横間集落は制度に取り組むことができる地域でもある。

〔富士委員〕これから中山間地域等直接支払制度に取り組む意志はあるのか。

〔事務局〕この前伺ったところでは、意志はあるが、市との調整が必要とのことである。

〔吉野委員〕以前の「中山間モデル賞」では制度を背景にしてきたこともあり、制度を導入して上手に町づくり・村づくりをしているという観点は弱くなるが、制度に取り組まなくても良いというわけではないことさえ周りに伝われば、条件を満たしていると考える。

〔事務局〕先ほど申し上げたように、この集落は多面的機能支払に取り組んでおり、集落ぐるみで活動している。実際、横間集落は来年あたりから制度に取り組もうとしているようであり、我々は、交付金を有用に使えるよう後押ししたいと思う。因みに、中山間地域等直接支払交付金は岩手県で年間35億円交付されており、全国的に取組が減っている中、本県はかなり取り組んでいる。そういう観点からも、後押ししたい。

〔富士委員〕集落全体がまとまって一生懸命取り組み、工夫しているのは事実。虫追いまつりにしても、小学生がいない中、中国人留学生を呼んだり、若い人たちも参加したりと、農業も含め一生懸命やっているのは素晴らしい。水芭蕉の群生地を現地で見したが、あれも農業をするが故に判ったことで、それまで誰も知らなかったそうである。農地を拡大していく中で見つけ、「手を付けず残したい」、「地域の宝である」と皆が認めていた。人が来るのも嬉しいが、汚されるのは困るという素直な気持ちもあった。

〔吉野委員〕調書にも書いてあるが、耕作放棄地が無い。「その他の地域」が非常に多いのでその理由を聞いたが、「元々は水稻を作っていたが、減反・生産調整のため、大豆等の他の作物を植え、農地としてきちんと活用している。」と話していた。耕作放棄地を出さず、集落全体で営農活動を行っており、非常に頑張っている地域であると評価できる。

〔事務局〕強い担い手に絞り補助事業を打つべきという考えがある一方で、中山間地域を中心に、実際に農地や農村を守っているのは小さな農家である。横間集落は、見る

限り荒れ地は無かった。また、りんどうでお金を稼ぐことがはっきりしている。りんどうであれば50a 作付けすれば生活でき、そのために水稻を維持するという思いのもとであると思う。実際現地へ行ってみると、傾斜があり、山あいではその先には農地が全く無いという条件的に厳しいところであるが、意欲を持って取り組んでおり、管理されていない農地が全くない。

〔角田委員〕 集落を維持していくために、若い人が定年になってから次々と戻って来る環境があればと思う。収入の保証がないため戻れないという話もあったので、そういった問題が交付金などを使いながら解決され、少しでも明るい未来が見えれば良いと感じた。

〔工藤委員〕 りんどうにこれからの担い手の可能性を感じているという話があった。米だけではなく、限られた面積の中で生活の糧となるりんどうがあるからこそ、次の世代が来るというお話もあったと思う。

〔事務局〕 りんどうを栽培するためには、作付けする前に米を生産していないと、連作障害等の障害が出る。そのために水稻を一生懸命栽培している。しっかり管理していると感じた。

〔角田委員〕 私もそのことを初めて知った。水稻とりんどうが交互に作付けされていた。

〔岡田委員長〕 特産物と言った時、「特製焼き肉のたれ」等はどう捉えるか。

〔吉野委員〕 売ってはいないが、地元で自給している資源活用型であり、特産と言える。商売は行っていないので、勿体ないとは感じる。

〔工藤委員〕 稼ぐ目的ではなく本来の生活を営み、自分たちの生活のためにりんどうを育て、それを糧に若い人を呼び戻す基盤を整えている点は、評価して良いと思う。

〔岡田委員長〕 中山間地域は現金を儲ける手段を持っておらず、条件不利地域であるため、生産力も低い。外部との関係がないと、集落を維持できない。そうしたときに、なぜこの集落が中山間地域等直接支払交付金の交付がなくてもやっていけているか考えると、出稼ぎ等の外からの収入や所得水準が高いということが想像される。そこがあまりに強いと、本当に農地や集落の維持になっているのかという疑問が出てくる。

〔事務局〕 横間集落はお金を出稼ぎや他の産業から持ってくるというよりは、ここでの

生活をするためにりんどうを選び、外部地域へ販売し、比較的豊かな所得を得ていたと思う。相対的な話であるが、これが米であるともっと収入が少なくなり、外からお金を持ってくることになろう。住民全員がりんどうだけでは生活ができないと思うが、農業所得の割合は、他の地域と比べると高いと思う。

〔富士委員〕確かに、一生懸命頑張っていると感じる。中山間地域等直接支払制度に取り組んでいないのは、色々な問題があったり、様子見であったりするのかもしれない。ただ、そこで食べてはいけている。公民館が主体となり、地区全体が集まり、そこに農業が一緒になっているため、そういう意味では非常に上手くいっていると思う。

〔事務局〕公民館であるが、別な看板として「農作業準備休憩施設」とあり、地域の農業のためにここを使うのだとこれだけはっきり示している集落はなかなか無い。

〔吉野委員〕調書において、子供も入っていると思うが、数字だけ見ると非農業者が多いように見える。働いている人のみで見れば変わるであろうが、集落を外部経済で支えているのではないかと思えてしまう。地域の半分以上が農業をやっていない中で、どのようにりんどうを主軸として地域で農業を維持していくかという課題はある。

〔事務局〕他の集落等の調書では、世帯数と構成人数が等しい数字になっているので、決して横間集落の農業者が少ないということではない。事務局として、調書の記載方法に統一感がなく、申し訳ない。

〔吉野委員〕横間集落は中山間地域等直接支払制度に取り組んでいないため、世帯数で書いてきている。一方で、他の集落・組織は制度に取り組んでおり、戸数と構成人数が等しくなるように書いている。むしろ、横間集落の方が正しい記載であると感じる。

〔岡田委員長〕意見交換の結果として、横間集落に平成 29 年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当であるとしてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

（２）奥州市前沢区「成岡田農地・水保全管理活動組織」

・事務局が、資料 No. 3 に基づき、奥州市前沢区の成岡田農地・水保全管理活動組織の概要を説明。

〈意見等の内容〉

〔工藤委員〕この組織は、女性が中心となって活動していることと、他の地域に出ている人にも連絡を取り合うことで戻って来てもらい、農地の管理を徹底している点が印象的であった。

〔岡田委員長〕現在の役員達も比較的若く、お年寄りという感じではなかった。

〔工藤委員〕世代交代が上手くできているように感じた。

〔事務局〕ここは中山間地域であるが、町場に近く、それゆえ稼ぐところがあるからではないか。水稲であれば土日でも作業でき、なおかつ息子夫婦が居るため、世代交代が上手くいったのだと思う。若い方々に色々な刺激を与えながら、自覚を持ち集落を出ていくようになった良い事例ではないか。県南は近場に稼ぐところがあるため、牛飼いや水稲農家も辞めていく状況にあるが、ここには荒らしている田はなく、非常に良いと思う。

〔田村委員〕今充実している分、これからの不安や課題はあるのか。

〔事務局〕地域の課題としては、1戸当たりの規模が小さいことが挙げられ、徐々に農業従事者が少なくなっている中で、どのように農村を維持していくかという点に課題があったと思う。

〔角田委員〕自分の農地はあるが遠くに住んでいるという方々にも、必要な時に案内を出し農地を管理するよう徹底し、きちんと維持できている。しかし、ゆくゆくは守れなくなると考えられ、組織として面倒を見なければならぬと不安を抱えていた。

〔福士委員〕外に出た人に来てもらうというのは、良い取組である。事務局が言うように、中山間地域は住むには理想の場所である。お金について心配せず、農作業をしながら食べていくことができる。ここは10分程度で都会にも行くことができ、また、段々畑に囲まれ、良い景観が広がっている。

〔岡田委員長〕移住者も2～3名いると聞いた。住みやすいのであろう。

〔事務局〕近くに工業団地や商業施設もあり、稼ぐことができる。しかし、この組織は農地・農村を守ろうと思っており、交付金のデカップリングは非常に有用であると思っている。儲けようという意識があまり無くなってきており、むしろ自分の住んでいるところを守りたいという意識が強くなっているかも知れない。今後は、差別化した

米作りなどをしていかなければならない。

〔田村委員〕自分たちで地域を維持して行こうとする集落は凄いと改めて思う。自分のところだけで精一杯となってしまう現状があるので、候補に挙がってくる集落は素晴らしい。

〔岡田委員長〕1戸当たりの面積が狭いと言いながら、丘陵的な斜面全体に水田があり見晴らしが良く、町場に近いといった都市的な田園風景を感じる地域である。

〔事務局〕法面の面積が多く、管理が大変と思う。調書に記載されている農用地面積と作付面積の差は、法面が大部分を占めている。

〔吉野委員〕8戸の繁殖農家はすべて前沢牛となるのか。

〔事務局〕繁殖牛なので、県南市場に9～10か月で出荷し、それを肥育農家を買う。おそらく一番多く買っているのは飛騨であると思う。JAS法だと最長飼育地の地名をつけて良いため、飛騨で飼育する期間の方が長いと、飛騨牛となる。本県は繁殖の県であるので、多くの県が買いつけに来る。

〔吉野委員〕繁殖農家が居ないと、産地維持やブランド形成が難しい。8戸でも地区でまとまり頑張っているのであれば、岩手のためになっていると思う。

〔岡田委員長〕意見交換の結果として、成岡田農地・水保全管理活動組織に平成29年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当であるとしてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

（3）一関市花泉町「上通集落」

- ・事務局が、資料No. 3に基づき、一関市花泉町の上通集落の概要を説明。

〈意見等の内容〉

〔郷右近委員〕この集落は、担い手3人に農作業を託している。また、日形地区全体で法人化を目指しており、将来的な後継者が居ないため法人化が進まないという地域はよく聞くが、この地域は法人化できそうであった。営農面では、土が細かく野菜が育たないため、米に頼らざるを得ないということであった。地域の特色を活かしており、他の地域のモデルになると感じた。

〔岡田委員長〕確かに、そのことを一生懸命言っていた。土壌条件が砂地であるようだ。

〔事務局〕排水性が悪い場所があり、まだ営農面で改善点はある。田による良い景観の米作りがあると、蓮やその周辺の景色と共に魅力ある地域に見える可能性は秘めていると思う。

〔岡田委員長〕ハウスでは何を行っているのか。

〔事務局〕水稲の育苗のみであるが、これから花や野菜の育苗に取り組んでいきたいということである。水稲の育苗だけでは非常にもったいないと感じた。

〔岡田委員長〕調書の写真にあるバーベキューの様子は、楽しそうである。持続的な農業生産・経営については、依然として土づくりを含めて心配があるという話があったが、組織的な対応ができそうであるから、何とか頑張ってもらいたい。

〔岡田委員長〕意見交換の結果として、上通集落に平成 29 年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当であるとしてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

【4 その他】

- ・事務局が、資料 No. 4 に基づき、いわて農業農村活性化推進ビジョン及びいわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業の推進状況について説明。

【5 閉会】

- ・事務局が閉会を宣言。